



献花をする相良こども園の園児

**次世代の子どもたちへ語り継ぐ**

■牧之原市戦没者追悼式・慰霊大祭

5月19日、牧之原市戦没者追悼式と慰霊法要がい〜らで行われました。

遺族の会をはじめ、多くの関係者の皆さんが戦没者の御霊を敬い、平和の大切さやありがたさを改めて考えました。

遺族会会長の石神齋さんは「終戦から72年、戦争の悲惨さや平和の大切さを、次世代の子どもたちに語り継いでいきたい」と話しました。

式典では、遺族会や相良こども園の園児たちが、祭壇に献灯や献花を行いました。

**本を読む習慣を身につけて**

■特別授業「歴史から学ぼう 家康の読書術」

相良小学校で5月9日、小和田哲男静岡大学名誉教授による特別授業「歴史から学ぼう 家康の読書術」が行われ、5・6年生約200人と保護者、住民らが参加しました。

小和田名誉教授は、家康が好んで読んだとされる歴史書や兵法書、歌集などを紹介。また、家康が夕力狩りを楽しむために、相良の地を訪れていたことなども話しました。

講演終了後、児童たちは思い思いの質問を積極的に投げかけました。



約200人の児童や保護者、住民らに講話する小和田氏

**私たちが手摘みした新茶をどうぞ**

■「学園茶」の販売と呈茶サービス

牧之原中学校3年生32人が5月21日、新茶の販売と呈茶サービスを東名高速道路の牧之原サービスエリアで行いました。

学校茶園で手摘みした茶葉を近隣の施設で製茶し、生徒たちが1袋50グラムずつ袋詰めにしたものを販売しました。

「私たちが手摘みした新茶です」と生徒らがPRし、用意した200袋は次々と売れました。

生徒は「自分たちが一生懸命摘んで作った新茶を買ってもらえて嬉しい」と話しました。



茶娘や茶息子姿で新茶販売や呈茶サービスをした生徒たち



買い物客に静岡牧之原茶を宣伝

**牧之原のお茶はおいしいよ〜**

■「静岡牧之原茶」大阪新茶キャンペーン

「静岡牧之原茶」大阪新茶キャンペーンが5月20日と21日、大阪市内の百貨店で行われました。

静岡牧之原茶の消費拡大を目的に行われたキャンペーンでは、静岡牧之原のブランド茶「望」の宣伝と、夏の需要拡大に向けて新茶の水出し煎茶(ティーバック)の試飲や、「望」の一煎パックを配布しました。

多くの人から「濃い緑色がとてもきれい」、「苦みがなくて甘い」と好評を得るなど、会場は大勢のお客さんでにぎわいました。

広報担当がどこにでも取材に行きます。あなたの身近にあるホットで楽しい話題やイベントなどの情報をお待ちしています。

秘書広報課 ☎0052 ✉seisaku@city.makinohara.shizuoka.jp



楽しみながら1本1本丁寧に苗を植えていく児童たち

**おいしいお米に育ってね**

■田植え体験

坂部小学校では5月31日、学校田で田植え体験が行われ、5年生15人が田植えに挑戦しました。

4班に分かれた児童たちは、榛原里山の会メンバーの指導を受けながら、長さ15センチほどに育った苗を、1本1本丁寧に植えていきました。

今後、PTAボランティアが田んぼの肥料まきや草取りを行い、9月頃の収穫時期になると児童たちが稲刈りを体験します。

田植えをした児童は「始めは泥が冷たくてびっくりしたけど、とても楽しかったです。おいしいお米ができてほしい」と笑顔で話しました。

**安全安心な海水浴場を守るために**

■サーフカーニバル in さがらサンビーチ

「静岡サーフカーニバル2017 in さがらサンビーチ」が5月7日、さがらサンビーチで開催されました。

この大会は、ライフセーバーの日ごろの訓練成果の把握やチームワークの強化と、市内にある海水浴場のにぎわいづくりの一環として実施されたものです。

競技は、水難救助を想定した3人制ボードリレーやタップリンリレーなど、その技能や体力、速さを競い合いました。



日ごろの訓練成果を競い合うライフセーバー



起震車の揺れに素早く机の下にもぐる園児たち

**地震が来たら冷静に素早く行動**

■地震体験学習

みのり幼稚園で5月2日、地震体験学習が行われ、園児96人が起震車で揺れを体験しました。

この学習は、市の防災課職員が起震車を操作し、実際の震度5強から震度7の揺れを園児らに体験してもらい、地震発生時の対応を学んでもらおうと毎年行われています。

森川道晃園長は「実際の地震発生時に、園児たちがパニックを起こさないように、素早く机の下にもぐることや頭を守ることの大切さを肌で感じてほしい」と子どもたちを見守っていました。